

家庭でできる省エネルギー のコツ(冷房時の省エネ)



◆環境課 ☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

先月号でお知らせしたように、今年の夏も市民、事業者の皆さんに節電をご協力お願いすることになります。

暑い夏に使用回数が増加するのが、冷房！

「でも、節電に協力しないといけないし…」とお悩みの方も大勢いると思います。

冷房の設定温度を1度上げれば、消費される電力やそれに伴う二酸化炭素の排出量を抑制できることは、このページで度々お知らせしてきたところです。

極力冷房の使用を抑えたいところですが、熱中症の予防も必要です。

そこで今回は、冷房の使用に的を絞った省エネルギーのコツをお伝えします。(環境省ホームページを参考にしています。)

☆扇風機やサーキュレーターを併用しよう！

冷房の温度は28度とし、扇風機またはサーキュレーターで室内の空気を循環させます。

状況によっては冷房を切れば省エネルギー効果が高まります。

この方法は冬の暖房時でも同様に使えます。

☆冷却グッズを利用しましょう！

襟や首まわりを、冷却ジェルシートや氷のうなどを使ってひんやりさせると、冷房感覚が良くなります。

☆窓辺を工夫しましょう！

窓からの日光や熱を遮ることで、冷房効果を高めましょう。

カーテンやブラインドで部屋に入る日光をさえぎりましょう。

または、窓の外側にすだれやよしず、先月号でお知らせしたゴーヤなどの「緑のカーテン」を設けるのも効果があります。窓辺から緑が見えると涼しげに感じます。

☆熱を部屋から追い出す！

留守などにして締め切っていた部屋は、とても暑くなっています。

その時は、すぐに冷房するのではなく、まず窓を全開にして外から風を取り込んで、部屋にこもった熱を一度外へ出してしまい、その後に冷房しましょう。外からの風が弱い場合は、換気扇や扇風機を使用して熱を追い出す方法も有効です。

☆注意！

節電に取り組むことも大切ですが、無理のない範囲で行ってください。

特に、高齢者や乳幼児、体調の悪い人がいるご家庭には、健康上支障のない範囲でのご協力をお願いします。

■省エネルギーに関する情報を web で紹介されています

政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」▼<http://www.setsuden.go.jp>

毎月第4土曜は
廃食油回収の日

平成26年8月23日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(119)

【休館日】月曜日、9月2日～4日（館内殺虫作業のため臨時休館）※市民は入館無料

◆テーマ展「瓦の考古学」／9月28日(日)まで

◆ロビー展示「銅鐸博物館周辺の蝶たち」／8月2日(土)～31日(日)

◆古代体験教室「古代の火おこし道具をつくろう」／8月9日(土)午後2時～4時 参加費1,000円、定員10人(電話で事前申し込み受付)

◆弥生の森の夏まつり／8月17日(日)午前9時～正午(少雨決行) ※詳細は27ページをご覧ください。

◆市三宅「野神神事子ども奉納相撲」見学会／8月24日(日)午後1時～ 屯倉神社集合(少雨決行)

◆弥生の森体験学習／夏休み期間中は毎日開催(休館日を除く)、まが玉作り(約60分・500円など)

※詳しくは博物館にお問い合わせください。

代の石碑があります。このほかに奈良時代の墨書土器が数点出土しています。須恵器の蓋などに「林福」「林宅」「林福」と記されています。これらのことから林姓をもつ一族が、小篠原周辺に居住していたことが、墨書土器や石碑からわ



福林寺遺跡と磨崖仏

野洲市内の古代寺院にかかわる遺跡として、福林寺遺跡(小篠原)、永原廃寺(永原)、六条薬師堂遺跡(六条)、八夫西ノ後遺跡(八夫)、木部遺跡(木部)、五条今屋遺跡(五条)が挙げられます。

福林寺遺跡は、現在の野洲中学校を中心とする二町四方に所在したと推定されています。昭和37(1962)年、野洲中学校の校舎建設工事や校舎の東側を流れる大堀川改修工事に伴い、多数の古瓦が出土したということです。昭和50(1975)年、校舎増築に伴う発掘調査が行われ、寺院に

関係する遺構は発見されませんでした。ここでも多数の古瓦が出土しました。なかでも、くりに抜き状の井戸枠内から蓮華文の軒丸瓦と唐草文の軒平瓦が出土しています。

京都東寺文書の康和3(1101)年の宣旨案によれば、福林寺は石城村主宿禰が建立したと伝えま。しかし、小篠原周辺の発掘調査において、林氏に関わる墨書土器などが見つっています。平成8年度の発掘調査において、全長90mの前方後円墳跡が発見されました。小字名から「林ノ腰」古墳と名付けられ

た5世紀末～6世紀前半の古墳跡です。現在、この古墳跡には「林殿墳」と彫られた江戸時代の石碑があります。



福林寺遺跡出土の軒瓦

かり、この林氏の氏寺が林寺であったと考えられます。

林寺は「造石山院所用度帳」によって、その存在を知ることができま。瀬田の石山寺は天平宝字6(762)年に信樂にある藤原豊成(大宰府長官)の「板屋式宇」(板葺き建物2棟)を買い上げま。この建物は現地の信樂で、解体され野洲川を下って「夜須瀬」から湖上を行き、石山寺で再度、組み立てられます。この建物の解体および運送を指揮したのが、林寺の僧の慶宝と法宣でした。この林寺が後に寺名を改め、「福」を先頭に付け加えて福林寺としたのではないかと思います。

その後、御上神社所蔵の「金

胎阿界曼荼羅」の裏書に、天文5(1536)年「福林寺宝蔵坊」とあり、飛鳥時代後半の創建から戦国時代まで福林寺は、存続したと考えられます。

野洲中学校の裏山には、室町～江戸時代に至る磨崖仏33体が4個の花崗岩に彫られています。福林寺に関わる磨崖仏か定かではありませんが、これらの仏が彫られた頃には、福林寺は衰亡していたと思われるま。

銅鐸博物館ではテーマ展「瓦の考古学」を9月28日(日)まで開催しています。

福林寺遺跡から出土した古瓦も展示していますので、ぜひご覧ください。

(学芸員 徳網克己)